始末と景気後退のダブルパンチ、対外関係では、欧米経済の回復の遅れに伴う対米、対ＥＣ関係の緊張化、旧ソ連の混乱さらにはウルグアイ・ラウンドへの対応等々、内外多事多難の年となりましょう。

最後に、当問屋センターの皆様方におかれましては、本年は従来にない厳しい舵取りが要求されるものと思われますが、今までに蓄積されました英知を結集され、この試練を乗り切っていただき、更にご発展されますことを心より祈念するものであります。

私ども金融機関におきましても、皆様とともに手を携え、様々なニーズにお答えすべく最大の努力をいたす所存ですので、本年もよろしくご指導ご支援の程、お願い申し上げます。

《参考》1992年度 経済見通し （%）

	政府見通し		民間見通し	
	91年度（見込）	92年度（予想）	91年度（見込）	92年度（予想）
実質成長率	3.7	3.5	3.3	3.0
民間住宅投資	▲9.6	2.8	▲9.9	1.6
民間設備投資	4.7	4.5	4.0	3.0
卸売物価	▲0.4	▲0.2	▲0.6	▲0.2
消費者物価	2.9	2.3	2.9	2.1
経常収支（億ドル）	725	710	820	950
為替レート（円）	133.9	130.4	134.0	130.0

初荷初市風景

金沢問屋センター繊維同業会（八田隆年会長）吉例の初市は１月８・９日の両日、各社会場にて行われた。

和装を見ると高級志向が引き続き、訪問着、振袖、留袖などのフォーマルが中心に動く様である。

また、婦人服については消費者の好みが多様化しており、今年の色・柄などは捕えにくいが、前年同様ミニが売れ筋と見られている。

金沢問屋センターニュース

1992. 1

No. 52

協同組合 金沢問屋センター 金沢市問屋町２丁目61番地 ☎37-8585●発行者／小川甚次郎

切磋琢磨して更なる発展を

㈳金沢問屋センター
理事長　小　川　甚　次　郎

皆様、明けましておめでとうございます。

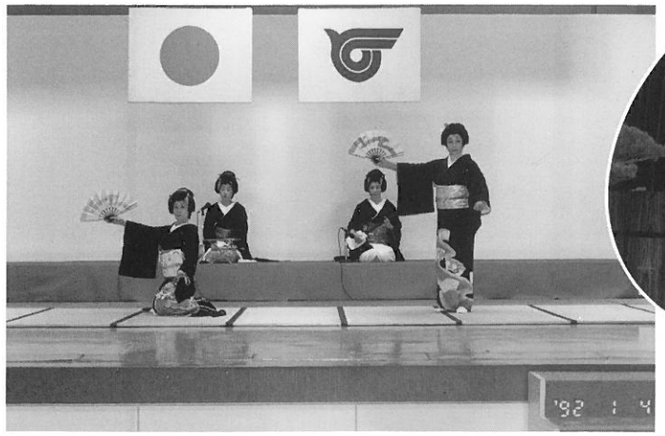
さて、昨年を経済面で振り返ってみますと、国際的には、湾岸戦争とソ連の崩壊など国際情勢が激しく推移し、また、米国経済の景気後退がみられた一年であり、国内的には、戦後最長となった大型景気も後半に入り減速し、個人消費もやや鈍化傾向を示しはじめております。今年も、その延長の、翳りの感が強い年となりそうですが、全組合員、お互いに刺激し合い切磋琢磨して、より積極的な営業展開をはかり、流通業の役割が大きく変化している時代に即応すべく努力して参りたいと存じます。卸の機能は、人、物、金と言われておりますが、最近では情報と物流が加わっており、これらがかみあってはじめてその力を発揮できるものであり、組合として今年は特に、人材確保に対し、マスコミを通じたＰＲと情報をからめた物流問題の解消、以上２点を重点課題として、取り組んで参りたいと考えておりますので、組合員各位のより一層のご協力を心からお願い申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

'92 新年互礼会

恒例、協同組合金沢問屋センターの新年互礼会は1月4日午後2時より金沢流通会館大ホールパルスにおいて来賓・組合員280名が参加して開かれた。

国歌斉唱に引き続き、小川理事長から「今年は特に人材確保及び物流問題の解消の2点を重要課題として取り組みたい」と挨拶があった。

次いで奥田運輸大臣、中西県知事、山出市長、沓掛参議院議員、中村会議所副会頭、安田中央会会長より祝辞を賜り、宇野県議会議員の発声の下に乾杯を行い祝宴に移った。美妓のお酌で話がはずみ、宴たけなわの処、末岡市議会議員の音頭で万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。



年男 大いに語る

申年の新年

石川日産自動車販売㈱
社長　石崎皓三

今年も雪のないお正月を迎えました。ここのところ何年か続いておりますが、近頃は「お正月に雪がなくて結構ですね！」と手放しで喜んではおれなくなりました。昔は元旦の朝から汗だくになって雪掻きをし、ゴム長の上から入らないように気をつけながら深い雪を踏みわけて初詣でに行きましたが、これも地球温暖化の現象かと思うと大変に心配です。

私共の会社は昭和17年の創業で、この11月には創立50周年を迎えるのです。50年間本当に多くのお客様のご愛顧を頂戴し、又先輩方の努力のお蔭で荒波の半世紀を超えてきました。〝これからの50年をどういくべきか〟そんなことをみんなで考えようということで、プロジェクトチームをつくったりして勉強しております。

〝企業の目的は利潤の追求である。〟とだけ言える時代ではなくなりました。国には、国際貢献が要求され、企業には社会貢献が要求されます。向う三軒両隣りから始まる私共の地域社会も地球環境に至る迄、考慮に入れなければなりません。

〝いま、地球上から一秒ごとにサッカー場一つ分の森林が消えている。このままだと、20世紀末には原始林はなくなってしまう。〟

〝サハラ砂漠は現在1年間に6キロの勢いで周辺に拡大している。牧草地は1968年時点と比較すると25%(87年現在)、熱帯林はこの70年間に40%も失われている。〟

〝東南アジアの輸出用木材の3分の2は日本向け。その為、フィリピンやマレーシア、インドネシアでは森林面積が激減、洪水と干ばつが繰り返し発生している。〟

事務用機器の発達により、簡単にコピーする用紙の無駄、読まれない多くのチラシや折込み広告、過剰包装等々、これらも砂漠化の原因であることは間違いない。

〝酸性雨による樹木の立ち枯れは、世界の多くの地域で増えつつある。西ドイツの半分の森が、上の方から枯れてきた。〟

〝スウェーデンでは8万5,000ある湖沼のうち1万8,000では殆どの魚が死滅、または激減しているという。〟

冬でも上着を脱いで事務をとっている暖房の無駄や、窓を開けて外気を入れなければならないような過剰な冷房など、それらもこの、かけがえのない、我等の天体地球を侵している。

こうしたことを考えながら企業も個人も地球号の一員であるという自覚のもとに、すべての人も、すべての企業も地球への貢献を考えそして実行するスタートの年にしたい。

歩んで来た道、未来への道

織田寝具㈱
社長　織田末男

久し振りに自分の干支が、還暦というおまけも付いて帰って来た。

創業以来37年、この間何をしてきたのか、最初の意気込みとは裏腹に何をやっても目標のほんの僅かしか実現出来なかった。しかし反省猿ではないけれど、問屋センターに出店した時にもう少し足元を固めてから前進すれば、もう少し目標に近づいていたかも知れない。しかしその時は、問屋センターに出店して一年間で売上は約三倍増した為、前後の見境なく猪突猛進し、その為同業者などにも反感をもたれ、猶且つ販売先の選別もせずに只、売上増に走った為に、大口の貸し倒れの発生、そして経営の危機に直面、その時初めて商売の厳しさを、また人を押しのけて背伸びすると必ずそのシッペ返しがあるとつくづく反省した。そして20数年、最近やっと地に落ちた信用を回復したと思ってふり返って見ると早還暦、しかしこれが自分の能力の限界と思えばやむを得ない。今後何回干支が帰って来るか予測は出来ないが、近い将来若い世代にバトンタッチして、輝かしい21世紀に向かってバランスのとれた経営をして行くよう努力して頑張って行きたい。その為には今後自分は空気のような（有るか無いか気が付かない、しかし無ければならない必要な）存在にな

るよう努力して行くつもりです。

本来ならばバブルの崩壊のことや、湾岸戦争またソ連の崩壊のことなど書くのが筋かも知れませんが、政治家や評論家の説明の方が良く分かり皆様ご存知の事ですので、単なる受け売りをくどくど申しません。只、弊社の場合、創業以来寝具一筋にひたすら努力して参りましたので、他社には絶対に遅れをとらないようやって来たつもりです。そして綿から合繊・羊毛・羽毛とすべて自社製造致しておりまして、今後厳しい状態が続くと予想されますが、絶対生き残ると確信しています。最後に物分かりの良いボスザルで頑張りますので何卒よろしくお願い致します。

商、剣道

㈱田村勝治商店
社長　**田　村　憲　司**

私は今年4回目の年男を迎えますが、御皆様方の御尽力により、この年に新社屋を完成、先代から引継いでいました㈱田村勝治商店を㈱タムラに名称を変更し、気持を新たに出発を計る所存であります。

私は健康管理の一つとして週２～３回県立武道館で、剣道の稽古に励んでおります。

剣道には「守、破、離」という修行段階を示す教えがあります。「守」とは先人の開いた常道にのっとり、規矩に準拠してこれを守り精進する段階をいい、「破」とはある程度の修行ができてから後に、自己の才覚や工夫によって一応常道を破って別に一派をなす段階であり、「離」とは、一旦自己の工夫・発明によって破り開いた道から再び抜け出して作為的なものや意識的なものから離れて、しかも法を失わず、矩を踰えない最終の段階をさします。

今私は、すべての面において「守」の段階でありますが、近い将来、自己修練を重ね「破」の段階を目ざし、商、剣道にがんばっていきたいと思っております。今後共よろしく御指導の程お願い申し上げます。

中年こそ大志

丸六㈱
社長　**篠　原　　勉**

新しい年を迎えるに当り、年男としての抱負を述べさせていただく事になった。

一つに正に中年の真最中にいるわけですが、顧りみるに少年時代よく「少年よ大志を抱け」という、かのクラーク博士の言葉を聞かされて様々な逆境の青少年時代を越えてこれたと思う。

しかし中年になった今「中年よ大志を抱け！」と自らに負荷をかけていきたい。理想と現実のギャップを「一期一会」の精神で処理すれば何とかなってゆく。ここでも自分をリードするのはやはり夢である。夢とあきらめず更に大きな夢を想像するのは楽しい。

二つに人生の大きな節目である還暦まであと１まわりしかない歳になった事である。仕事に家庭に社会に円熟さが求められる頃でもある。終着駅のある人生という名の鉄道に乗っていると、いろいろな駅でいろいろな人々が乗り降りしてくる。新年は良い乗客と良い時を大切にしてゆきたい。また一つ、「1992年」という駅を発車する我が「大志」号である。

きもので乾杯!!
おめでとう フェスティバル

１月15日、金沢東急ホテルで「きもので乾杯!!おめでとう・フェスティバル」（主催・石川県和装振興会）が行われ、新成人約300人が参加した。

俳優の坂上　忍さんをゲストに迎えて、唄やゲームの他、豪華景品の当る抽選会もあり、盛りだくさんの内容であった。

1992年の経済見通し

北陸銀行金沢問屋町支店
支店長　**舟　坂　安　孝**

あけましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、91年は、国内はバブル経済の崩壊、証券・金融不祥事に揺れ、海外では湾岸戦争に始まりソ連邦の解体に終わるという、まさに激動の一年でありました。92年の世界は果してどうなるのでしょうか。また、そうしたなかで今後の日本経済はどのような姿になるのでしょうか。

まず始めに、91年の日本経済を簡単に振り返ってみますと、景気は、年初から年末に向けて、次第に減速しました。これは、個人消費が物価の落ち着きに伴う実質所得の増加に支えられて回復したものの、89年５月以来の約２年にわたる金融引き締めの効果が浸透して、住宅投資が大きく落ち込んだほか設備投資が減速し、輸出も米国向けを中心に伸びが鈍化したためであります。政府は、91年度後半を、「やや過熱気味だったこれまでの高い成長から、インフレを招かない潜在的な成長力に見合った持続可能な成長へ移行する過程」と位置づけています。

それでは、92年の日本経済の先行きを見通すうえで重要なポイントとなる原油価格と米国経済についてみてみますと、原油価格は、OPEC諸国の価格重視の生産体制、クウェートの予想を上回るペースでの生産力の回復等からみて、現状の１バーレル当たり20ドル前後で、落ち着いた動きが予想されます。

次に、米国経済については、最悪期は離脱したが、クレジットクランチ傾向が続き、家計、企業とも債務が高水準、しかも政策は手詰まり状態といった現状からみると、景気回復テンポは極めて弱く、回復の足どりが明らかになるのは年後半を待たねばならず、実質成長率は91年のマイナス0.5％から92年は１％前後のプラス成長と予想されます。また、双子の赤字については、財政赤字で税収が伸び悩むなか、Ｓ＆Ｌ救済資金も膨らみ、92年会計年度は約3千8百億ドルと史上最高を記録するものと見込まれます。経常収支は湾岸支援金の要因が剝落することから92年には赤字幅が再び拡大に向かうことになるでしょう（91年マイナス120億ドル→92年マイナス600億ドル）。

以上のような外部環境のもとに92年の日本経済の姿を展望することにしましょう。

まず経済政策についてみると、金融政策は、当面、第三次利下げの効果を見守りつつ、市場金利の低め誘導により市中貸出金利の低下を醸成するという実質金融緩和を図るものと思われます。但し、景気減速のテンポが予想以上に強まった場合は、第四次利下げにより年4.0％の水準までの公定歩合低下もあり得るでしょう。

財政運営については、財源難から92年度当初予算は緊縮型となったが、政府の92年度成長目標3.5％実現には、追加的財政措置を必要とする公算が大きく、今後、内外からの要請もあり、財政運営は結果的には景気刺激型に落ち着くのではないかと思われます。

次に、需要動向を部門別にみると、まず、家計部門については、個人消費は、企業収益および雇用環境の悪化から名目可処分所得は伸び悩むものの、消費者物価上昇率の低下（91年度2.9％→92年度2.1％）により、実質所得が堅調に伸びるため底堅く推移するものとみられます。

住宅投資については、91年中にすでに相当程度落ち込んだことに加え、金利の低下、第１次石油ショックまでに建てられた１戸建住宅250万戸の潜在的な建て替え需要期に入ることもあり、92年4～6月期から着工戸数は徐々に盛り返し、年間では、91年度と横ばいの130万戸程度とみられます。

次に、企業部門のうち、在庫投資については、91年に入って需要の減速で「意図せざる」在庫が急速に積み上がっており、少なくとも92年前半は、在庫調整が迫られることになりそうです。さて、景気の鍵を握る設備投資ですが、企業収益の伸び悩みはあるものの、省力化投資や研究開発投資は底堅い、金利低下の効果がでる、在庫調整が完了する、などから92年度下期から上向くと予想されます。92年度民間企業設備投資は3.0％と91年実績予想4％前後を若干下回ると見込まれています。

国際収支については、輸出が持ち直すのに加えて、輸入の伸びが、内需の減速から低下すると予想されるため、貿易収支、経常収支とも拡大傾向が続くと予想されます。このため、貿易摩擦の再燃といった国際問題にまで発展しかねず、今後、何らかの政策的対応を迫られる可能性も十分にあります。

為替相場は、米国金利低下、日本の経常黒字拡大から92年初はやや円高、その後は日本の金利低下、米国景気の持ち直し期待などから一時的なドル高局面が想定されますが、年央以降は、日本の長期金利上昇から再び円高となりましょう。92年度平均は130円前後とみられます。

以上を総合しますと、92年の日本の景気は夏頃まで減速を続け、秋口以降ストック調整の自律的反転をテコに、緩やかに回復に向かうと思われます。GNPの実質成長率は、実態的には、政府の3.5％に対し、3％前後の低成長にとどまるものと思われます。

いずれにしても92年は、国内的にはバブル経済の後